

夢の宅配便

1 年学年主任
水野 喜代治

7 月 7 日…七夕です。あいにくの雨ですね

今日は、七夕ですね。7 月 7 日といっても、昔の暦では七月は、今より一カ月くらい後でしたので、現在の八月が七月でした。八月の夏空は、梅雨も明けていて、夜空に「こと座」と「わし座」が七月よりも輝いて見えたと思います。

私は、小さいころに、母に、「喜代治、星がきれいだよ」見てごらんとと言われて、夜空に宝石を散らばせたような美しい星々を見たのを今も憶えています。真夏の夜に母の背中におぶさって見た星の輝きは、天の川だったのかもしれませんが。私が、最初に夜空が美しいと思った瞬間です。たぶん、父が亡くなる前のできごとなので、3 歳ぐらいの時の思い出です。それ以降、父を失った母は、家族の生活を支えるために、身を粉にして働いていましたから、母と夜空を見る余裕など我が家にはありませんでした。

この便りを書きながら、「そういえば、最近、七夕など意識したことなどなかったな」と思いました。私の幼いときのアルバムをみると、母に抱っこされて、平塚の七夕祭りの飾りを興味津々に触っている写真があります。私の幼い頃（約 60 年前）は、写真は特別なもので、滅多にとられることはありませんでした。数少ない私の写真の一枚に右の七夕の写真があります。母は、七夕が好きだったのかなとふと思います。

母が、夜空を見たときに「喜代治、人は死ぬと星になるんだよ」と私に言いました。「こんなにたくさんの人が死んじゃったの？」と答えたら「そうだよ、でもこの星の数だけ人が生まれてくるんだよ」と説明してくれました。「たくさん輝いている星の中で、ひときわ輝く気になる星が目にとまるよ、それは一番大切だった人なんだよ。」と夜空を見上げて話してくれました。その母も十二年前に無くなってしまいました。



今日は七夕、あいにくの雨です。雨雲におおわれた今日の夜は、星の輝きの一つも見られません。でも、雲の上には満天の星がいつも通り輝いているはずですよ。雨雲の夜空を見上げて、雲のかなたに輝く星で「ひときわ輝く星」に出会いたいと思います。感謝を込めて……。